中学生広島平和教育研修

富士見中学校２年
雨宮（あめみや）　鈴佳（すずか）

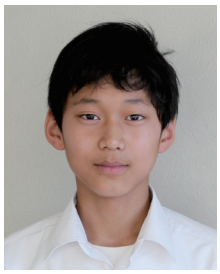
広島研修で学んだこと

今年の八月六日は、広島に原爆が投下されてから、七十二年目となる日でした。

平和記念式典に参加し、被爆した時刻の午前八時十五分と同時に黙とうをしました。平和宣言や平和への誓いを聞き、そこで平和への思いがとても伝わりました。次にＹＭＣＡ本館へ行き被爆者の話を聞きました。被爆者の木村さんは、父と姉、妹を原爆の影響で亡くしました。そして、一番下の弟も、放射線を浴びた母親の体内から産まれてきて、現在も原爆小頭症という病気を抱え生活をしているそうです。実際に経験したことをお聞きし、とても心が痛みました。被爆者の年齢も上がり若者に戦時中の話をしてくれる人が少なくなってきた今、貴重なお話を聞けたので良かったです。

平和記念資料館には、八時十五分に止まった時計、火傷した人の写真、焼けこげた服などが展示されていました。それらを自分の目で見て、原爆によってどれだけすさまじい衝撃や高熱を受けたのかが伝わり、とても悲しい気持ちや、言葉に表せないような感情になりました。その後、平和への願いを込めとうろう流しをしました。私は、「一日一日を大切に、世界中のみんなが笑顔になれるように平和を願っています」と書きました。この思いが、多くの人々に届いてほしいです。そして、本川小学校という被爆した建物がそのまま残っている学校へ行きました。爆心地からもっとも近い小学校として残されており、被爆後に生き残ったのは、先生と生徒一人ずつと聞いてとても衝撃を受け、これも悲しい気持ちになりました。

三日間をとおして、広島に平和への願いが届けられたと思います。自分の目で見たり耳で聞いたりすることで学習した原爆による悲惨さや、平和への願いを、富士見中や富士見町の皆さんに伝えていきたいと思います。



富士見中学校２年
大日方（おびなた）　信紘（のぶひろ）

広島研修をふり返って

ぼくたちは8月5日から7日の3日間、富士見町の代表として広島を訪問してきました。

広島ではまず平和記念式典に参加しました。式典では平和宣言や平和への誓いなどを聞きました。その話を聞いて自分たちが今やれること、やらなければいけないことなどをより考えを深くすることができました。その後は平和への想いが届くように献花をしました。

その後、原爆被害者8・6証言のつどいという会に参加しました。そこでは、原爆被害者の木村巌さんという方が当時のことを話してくれました。木村さんの体験談は戦後のことで、広島の原爆の後どう生活をしてきたかを話してくれました。その話は当時13才の木村さんが父や妹たちを亡くしてもそこから仕事を探していく、原爆が落ちた後の広島の人たちのがんばりがすごく伝わる話でした。この貴重な被爆者から直接聞いた話を次の世代へつながなければいけないと強く思いました。

その後は平和記念資料館を見学しました。資料館には、当時の写真、映像、展示品などがありました。そこには原爆の投下前と後の写真があり、他にも三輪車やビンや時計などがあり原爆の恐ろしさを感じる物がたくさんありました。そして資料館には昨年、広島を訪問したオバマ元大統領の折った鶴が展示してありました。その折り鶴はとてもていねいに折られていて平和への強い想いが伝わってきました。その後は、原爆の子の像にみんなの想いが詰まった千羽鶴をかけてきました。

その後は、とうろう流しをしてきました。とうろうには人それぞれの想いを書いて流しました。ぼくはこれからの世の中が平和でありますようにと想いをこめました。それぞれの想いがこもったとうろうはすごくきれいでした。

本川小学校は当時の校舎がそのまま使われている資料館でした。その資料館は床がでこぼこの所や焼けこげた配電盤などがあり、原爆での建物への被害の大きさをすごく感じることができる場所でした。

今回の広島研修で学んだたくさんのことを、いち早くたくさんの人に伝えていけるようにがんばります。